



2月号

令和3年1月25日

横浜市立 星川 小学校

校長 小西 俊光

TEL.332-2101 FAX.331-5052

WEB ページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hoshikawa/>



## コロナ禍の中でも、すくすく成長する星の子

学校長 小西 俊光

「校長先生、なぜ正門をいつもより早く開けるの？」

「今、緊急事態宣言が出ていることを知っていますか？ 今は、特にコロナウイルス感染症に注意しなければいけないときなんです。正門を開ける8時5分になると、正門の前にたくさん人が集まっているので、正門の前で待つ皆さんが密にならないようにするために早く開けました。」

「ああ、そうなんだ。だから早く開けたのか。分かりました。校長先生、ありがとうございました。」



1月12日（火）、普段より5分早く正門を開けたときの、児童とのやり取りの一幕です。「いつもと違うのは何でなんだろう」という疑問をもてたこと。その疑問を解決しようと質問できたこと。質問に答える校長の話をしっかり聞いたこと。疑問に対する答えを納得できたこと。納得したことを伝えることができたこと。お礼を言えたこと。…など、この児童の成長した姿に出合えることができ、とてもうれしく思いました。

本校では、「自己の学びを大切にして、ともに高め合う子 ～子どもの問いや追究の道筋を大切に、主体的に問題解決しようとする態度を育む授業づくり～」を研究テーマとして、児童の問い、すなわち問題意識を大切にして学習を進めています。児童の問題意識を大切にして学習を進めることで、「やらされている学習」から「どうしても学びたい学習」へと学習への意識を変えていきたいと考えています。まずは、児童が問題意識をもち、それを自ら進んで解決していく経験を積み上げていきたいと思っています。

もう一つ星の子の成長した姿を紹介したいと思います。これは、全学級の授業を見に行ったときに出合った星の子の姿です。

1年生教室での音楽の授業で「おもちゃのチャチャチャ」を歌い終わり、担任の先生から「チャチャチャのところで、パン、パン、パンと手拍子を入れることができますか？」と児童に問いかけたときでした。児童は口々に「できる！」と言ったり、手拍子をしたりする子がいて、やや興奮気味でした。これまでは「はい。静かにしましょう。」「手拍子をやめましょう。」と担任の先生が言わないと次の活動に移ることができなかつたのですが、担任の先生が「おもちゃのチャチャチャ」を伴奏し始めると、糸を引くように児童は「おもちゃのチャチャチャ」を歌い始め、「チャチャチャ」に合わせて「パン、パン、パン」と手拍子をしていました。担任の先生がテンポを少し早くして伴奏すると、児童はテンポに合わせて手拍子をすることができました。この学級の児童は、担任の先生が言葉で注意しなくても、担任の先生の伴奏を聞いて、今何をしなければならないかが分かったのだと思います。学級集団としての成長を見ることができました。

様々な制限がある中でも星の子は確実に成長しています。星の子のたくましさに私たち教師もたくさん力をもらっています。あと2か月で星の子は進級・進学します。これからも保護者の皆様、地域の皆様からのご支援を賜りますよう宜しくお願いいたします。